

夜神楽三十三番

神楽は、三十三の演目から様々の構成で、夜を徹して舞い継がれます。これら演目の中で、様々な神話の神々が、舞い入ります。その舞は変化に富み、表情や技も多彩です。時には、見物客をも巻き込んで踊ります。

主に、高千穂地区には、18～20の集落でそれぞれの神楽が行われます。演目の長さ、調子、順番、衣装、装飾まで、集落によって異なります。高千穂では、特に夜明けに行われる天岩戸の演目の夜神楽が有名です。この演目は、日の出の時間に正確に合わせて天照大神が天の岩屋戸から出てきます。これと共に神楽の元になったと信じられている天鈿女命の舞も行われます。

夜神楽鑑賞の心得

夜神楽の鑑賞心得は、地域によって違いがあります。多くの地域では、里人が神々と共に食することは、しきたりとなっています。見物客が神庭（神楽の舞台）に入ることは、強く禁止されていますが、神々が民衆とふれあいに降りてこられることもあります。高千穂では、伝統料理の神楽うどんや煮しめやかっぱ酒（竹で出される熱燗）などがふるまわれることが通例です。夜神楽に参加する上で尊重しなければならにことはたくさんありますが、一番大事なことは、皆が里人として一緒に同じ敬う気持ちを持って楽しく参加することです。